

理科しませんか？通信

2021.5.31 第7号

森田 博

我が家の幹之メダカ
虎姫学園ビオトープ



ロイロノートはこう使う Vol.3

5年生「魚のたんじょう」～メダカ倍返しプロジェクト～



自宅では、改良メダカを10年以上飼育しています。「幹之(みゆき)メダカ」という品種です。背中や背びれなどに光沢をもつメダカです。色もいろんな色がありますが、自宅で飼育しているのは青メダカの幹之メダカです。



梅雨が早くきたためか不明ですが、メダカの産卵も今年は早いようで、100匹程卵を産んでいます。それを5月の中旬に授業で見ていただきました。授業前に顕微鏡とiPadで撮影していたら、ぴくっと動く瞬間を捉えるという奇跡が起きました。子どもたちも目を光らせて見ていました。



目、背骨、血流、心臓がくっきり分かります。ICT機器の有効な活用の例です。虎姫学園のビオトープでワン掬いでこの量。

実際に授業で子どもたちが作ったペットボトル水槽で飼育し、孵化を目指すのは、実は…虎姫学園のビオトープの野生メダカです。虎姫学園は前任校であり、毎年たくさんのメダカが孵り、何十年も前から繁殖し続けています。すごいです。お願いをして少し分けていただきました。50匹程。子どもたちと授業で育て、孵化を目指し、100匹にして返そうというプロジェクトです。さて、実現するのでしょうか!!

「植物の発芽と成長」と併用して「魚のたんじょう」を進めています。発芽の様子を観察しながら、メダカも飼育。生き物に囲まれながら、命に直接触れながら学習できる環境が今、理科室にはあります。

第1時で取り組んだことは、「メダカベストショット」の撮影会。「よく見て観察しよう」と投げかけるより、「iPadでお気に入りの写真を撮ろう」とした方が、じっくりと、何度もピントを合わせながら撮る子どもたちのキラキラする姿。最高でした!!それをロイロノートの「提出箱」という機能で、子どもたちの写真を集め、鑑賞しました。その後、電子黒板に直接ペンで書き加えながら、雌雄の判断を学習しました。

